平成26年度 地域相談支援フォーラム(東北ブロック) セッション2:[『1施設を超えて患者さん・そのご家族を支えるためにできること』



由利本荘市 人口82,423人 世帯数30,514世帯 2014年6月30日現在

•病院数:6

·診療所(老健除<):45

・診療所(老健含む):48





がん相談支援体制

☆がん相談支援センターで看護師1名専従

★医療社会事業室 MSW 3名 (相談員基礎研修1・2受講2名 相談員基礎研修3を8月受講予定)

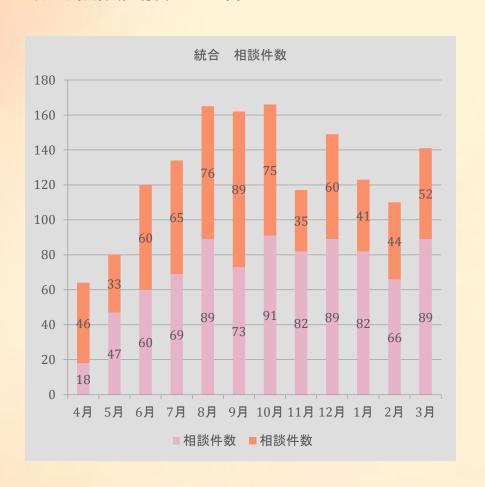






平成25年度 相談件数

がん相談支援1531件





平成25年度 がんサロンの開催状況 学習会やパステルアート、タオル帽子製作



年間70名参加 月平均5.8人











平成26年度 サロンおひさまinカダーレ 院外で初開催決定

☆広報☆

- 院内掲示板
- 病院ホームページ
- ・地域ケア会議
- ・地域の施設や 病院や医院
- ・ 地域の情報誌
- 市政だより

病院5ヶ所

診療所 48**ヶ**所

MSW**やケア** マネージャー 50人



☆当日スタッフ☆ 7名

緩和ケアチーム(看護師・心理療法士 作業療法士) MSW・事務

内容

①講演 座長 看護師長 「もしも"がん"と言われたら」

本荘第一病院緩和ケア認定看護師小松繭子様

②患者・遺族の体験談(2名)

③茶話会 4~5人グループ 進行:心理療法士 (患者・家族・遺族・医療関係者グループ)

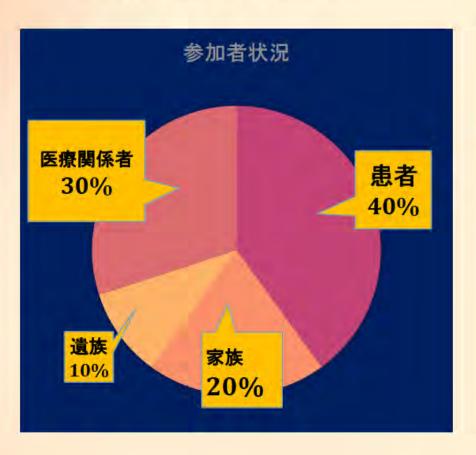
4パステル和みアート展示

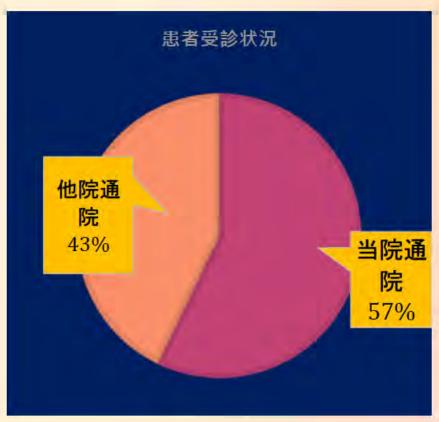


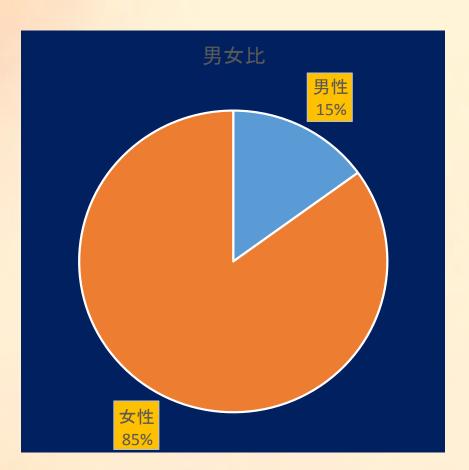


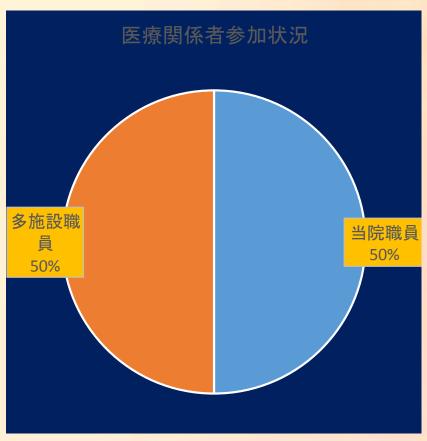


参加者の状況









参加者からの声

- 家族ががんと言われて何かしてあげたい、という思いが強かったが、ただそばにいてほしい、ただそばに居るだけでいいんだということが分かった。
- 毎日、明るく前向きに生きている、という患者の言葉に感動した。
- がんと診断された時、家族に対して、患者に対して、友人としてどんな関わりをしたいいか参考になった。
- 介護士ががん患者の利用者とどのように接したらいいかといろいろ勉強していることが分かり看護師や医師、病院だけではなく介護施設などの方とも一緒に連携を図っていく必要性を感じた。
- 診察の時、医師から、この程度なら動いてもいいですよ、と具体的に言われると患者として安心であることが分かった。そばにいる看護師としてさりげなく確認できるように促したい。
- 越えられない波は与えられない、越えられない波はない、という言葉を忘れずにいたい。そして支えてあげたい。
- 父にもっと何かをしてあげられたのに、とずっと心に引っかかっていたものが今回、体験談を話し茶話会で遺族の方の話をしたことでつまっていたものが流れていくのを感じた。
- 定期的に院外でもやれたら、参加する方がいると思う。仕事をしていると悩みがあっても時間に拘束されて、抜けられないし余裕がなくて相談することすらわからないかもしれない。行政と連携を図りながら18時~20時ころがん相談や医療相談できる場所があったらよい。
- 地域に(大内・にかほ方面東由利方面など)巡回相談支援センターのようなこともできたらいいと思う。

初めての院外サロンを通して見えた繋がり

1施設を超えて患者さん・そのご家族を 支えるためにできること

相談できる場所 がある安心感

がん相談支援セン

ターを利用してく

れる方

院外連携

仲間等

行政や患者会 地域の医療機 関、地域の緩 和ケア認定看 護師、相談員

●院内連携

総務課、地域連 携室、訪問看護 ステーション病 棟や外来

初めての院外サロンを通して見えたもの



地域

・由利本荘市文化交流館カダーレで開催したことで 一般市民にがん相談支援センターの存在を知って もらうことができた

浸透

- ·病院5ヶ所診療所 48ヶ所MSWやケアマネージャー50人 案内送付
- ・地域の情報誌JAウインズ13、000戸に配布・市政だより30,500世帯
- · 近隣の病院の緩和ケア認定看護師に講演を依頼したことでがん相談支援センターの宣伝に繋がった





役割

- サロン開催におけるスタッフの対応能力が参加者の満足度に繋がる
- 参加してくれた方が家族や地域に伝えられるような内容を工夫
- 地域に根差したがん相談支援センターになるための積み重ねていく